

させるプログラムを提供できる
大学との連携授業を大阪成蹊大
学と人間科学大学で「サマーチ
ャレンジ」と銘打って、実施予定
である。また、新たに勉強合宿の
実施に向けた取り組みも検討中
である。

4 自ら気づく人を育てる

平成二十四年四月に校長とし
て着任して一年あまり、旧知の
教職員や地域の方に恵まれ何と
か重責をこなして来た。しかし、
「自ら気づく人を育てる」を目標
に「茨西PRIDE」のもと生徒
の志をカタチにするため、家庭
と地域を巻き込んだ教育活動を
展開することで茨西ブランドを
確立するという学校像の実現に
向けては、進行中という現状で
ある。平成二十四年八月に学校
ホームページをリニューアルし
てからは、ブログ形式の校長室
便りを発信し続けた。今では、一
〇二号（五月末）を更新してい
る。行事や生徒の様子、校長とし
て気づいた事をつぶやいている
が、地域の方や他校の先生方に
読んだよ、と言って頂くと元気



通学安全指導

が沸くものである。また、平成二
十五年一月の始業式から、開式
の前に校歌斉唱をすることにし
た。当たり前のごとくのように
あるが、今までは、実施していな
かった。校歌が鳴るメロディチ
ヤイムの導入は、業間遅刻が無
くなったという成果は上がった
が、せっかく耳に残ったメロデ
イも体育祭や卒業式でしか校歌
斉唱をしなかったもので、歌詞を
覚えるまでには至らず歌詞を見
ないと歌えない状況であった。
始業式・終業式で斉唱すること
で少なくとも年五回歌うことにな
り、卒業時には歌詞を見なく
ても大きな声で誇らしげに校歌

を歌える生徒が育つ事が楽しみ
である。

部活動で優秀な成績を残した
生徒には、高体連等より賞状等
の授与がある。これに対して、
日々の学校生活の中で顕著な活
躍をした生徒を励ます方法はな
いかと、今年度より「茨西PR I
D E バッジ」を作り校長賞とし
て授与しようと考えたところ、
生徒がバッジデザインを考えて
くれた。その生徒が第一号の受
賞者である。卒業式に自らバッ
ジをつけて参加してくれる生徒
たちが出ることを望んでいる。

「自ら気づく人を育てる」の対
象は、生徒だけではなく、私自身



オープンスクールの様子

を含めた教職員もそうなって欲
しいという思いがある。教職員
が茨西PRIDEを持っていて
か、あるいは校長として持たせ
ることができているかを自問自
答しながら、先生方の自主研修
を支援できないかと思いい、今年
度「IBANISHHIメンター
チーム」を立ち上げた。今年、本
校には十年目研修対象者が四人
いる。彼らの研修成果を若手教
員（五年目以下が十人）にOJT
を実施しながら、ざっくばらん
に話し合えるオフサイトミーテ
ィングの場として、校長室を開
放し七回、学校内でおこなわ
れているさまざまな活動や取組
みについて、ワイワイガヤガヤ
と気軽に意見交換をする。その
ことにより、現在および将来の
組織能力と、個人の能力・意欲
を引き上げることができる。

校長として、「校長の限界が学
校の限界」と自分に言い聞かせ、
「茨西PRIDE」の種を本校に
関わる全ての人に蒔き、自ら
気づく人が少しでも多くなるとい
う実になる事を願いながら過ご
しているところである。